

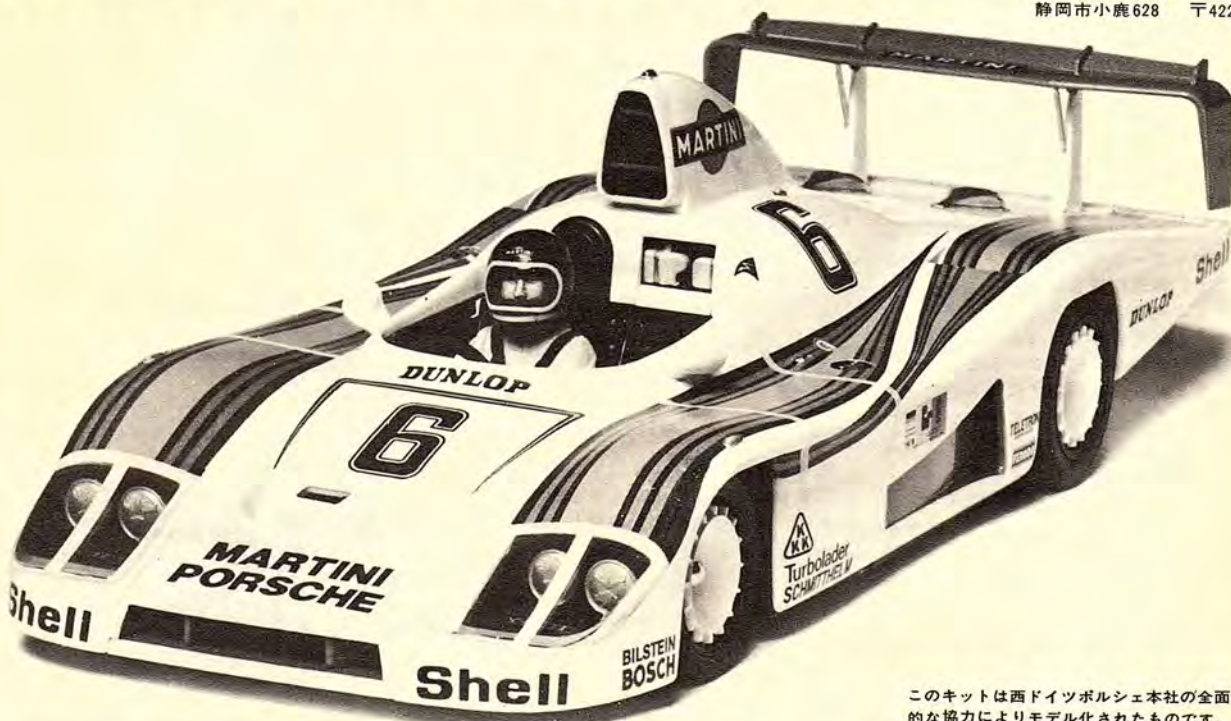
MARTINI PORSCHE 936-78 TURBO

1/24スポーツカーシリーズ NO.12 マルティニ・ポルシェ936-78ターボ



TAMIYA

静岡市小島628 千422



このキットは西ドイツポルシェ本社の全面的な協力によりモデル化されたものです。

自動車レースが長い歴史と伝統を持っているヨーロッパでは、モータースポーツファンも子供から大人まで幅広い人々がいます。もちろん、長い歴史を持っている自動車レースは数多くありますが、中でも、高い人気を集めているレースにル・マン24時間レースがあります。1923年に第1回が開催されたこのレースは、まるまる24時間休みなく走り続ける世界でもっとも苛酷なレースのひとつとして有名です。第2次世界大戦中に開催されなかったのを除き、ずっと年1回開かれてきましたが、24時間に渡るレースは毎年さまざまなドラマを生んできました。数多いエピソードの中でも、強力なライバルチーム同志によってしばしば繰り広げられた激しい戦いは、24時間のレースを盛り上げたドラマの主役のひとつと言えるでしょう。イギリスのジャガー対イタリアのフェラーリ、フェラーリ対アメリカのフォード、そしてフォード対ドイツのポルシェなど、各国を代表するメーカー同志の戦いは数多く上げることができます。そして、1976年から1978年にかけての3年間はドイツのポルシェと地元フランスを代表するルノーとの戦いが繰り広げられてきました。1976年、77年と2年連続してポルシェが勝利を飾った後を受けた、1978年のレースは、ポルシェ対ルノーの対決ムードがもっとも盛り上がりを見せたと言えます。打倒ポルシェに燃えるルノーは新設計のアルビヌ・ルノー A443ターボをはじめ4台のアルビヌ・ルノーターボを用意。一方3年連続優勝をねらうポルシェは昨年のルマンに優勝した936ターボを1台とグループ5の935-78ターボを1台、そして、切り札として2台の936-78ターボを繰り出したのです。

1978年のル・マン24時間レース用としてポルシェが開発した936-78ターボは77年に優勝を飾った936ターボを基に作られています。ボディスタイルはもちろん、エンジンなども細部まで大幅な改良が加えられています。エンジンはポルシェの水平対向6気筒DOHCで排気量は2140cc。ワークスポルシェとして初めて水冷式シリンダーヘッドを採用しているのが特徴です。これにより、77年型の936ターボのエンジンが1気筒あたり、2つのバルブを持っていたのに対して936-78では倍の4つのバルブを装備することが可能となっています。4つのバルブ装備で吸排気効率はぐんと向上、パワーアップにもつながっています。これまで同様空冷式を採用しているエンジン本体、そして、水冷式シリンダーヘッドという複合冷却システムを採用したこのエンジンはターボチャージャー2基を装備して実に580馬力を発生するのです。

ボディスタイルで大きく77年型とかわったのはボディサイドに水冷式シリンダーヘッドのラジエター冷却用NASAダクトが設けられた点と、リヤウイングの形です。ボディ両サイドに開けられたNASAダクトは936-78ターボのスタイルの特徴となっていますが、レースに登場した2台の車はそれぞれ、赤と青にダクトの部分塗り分け、さらに強調しています。リヤウイングは、2本の細い支柱によって支持され、ウイング翼端が下方に直角に折り曲げられた独特な形状をしています。さらに、リヤカウルは77年型より約10cm長くなり、フロントカウルも全体的に逆Rがつくなど、全体の空気力学的デザインもぐっと向上していることは言うまでもありません。ミュルサンヌと呼ばれる長い直線路を持つル・マ

ンのサーキットでは、直線でスピードをかせぎ、高速安定性を増すことは、重要なポイントのひとつなのです。ジャッキー・イクスの乗った936-78はミュルサンヌの直線で最高時速337km/hを記録しています。

1978年のル・マン24時間レースは6月10日から11日にかけて行なわれました。ポルシェ期待の936-78ターボはナンバー5を1975年のル・マンから3年連続優勝を続けている名手ジャッキー・イクスとフランス人のアンリ・ベスカロロに、ナンバー6をボブ・ウォレック、ユルゲン・バルト、ラインホルト・ジョストにゆだねました。予選ではイクス・ベスカロロ組が期待通り最速のタイムを記録してポールポジションを獲得。もう1台のナンバー6も4位に入り、実力の程を見せつけたのでした。しかし、決勝では思わぬトラブルが待ち受けていたのです。

6月10日午後4時のスタートと共にポルシェはルノー勢に遅れを取るようになりました。ターボトラブル、ミッショントラブルなど、さまざまなトラブルに見舞われる2台の936-78ターボはずるずると後退。ついに、イクスは不調のナンバー5をあきらめ、ジョストにかわってナンバー6に搭乗し、10日夜から11日にかけて驚異的な追撃を開始、イクスのドライブで4位から一気に2位にまで浮上しましたが、その後もミッショントラブルに悩まされ続け、ついにルノーをとらえることはできませんでした。しかし、トップから5周差の2位をみごと守り切ったのです。優勝こそできなかったものの、1978年のル・マン24時間レースにおいて、ポルシェ936-78とイクスの迫力ある走りは、大いにレースを盛り上げたと言えるでしょう。

作る前に必ず
お読み下さい

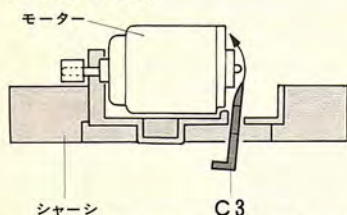
★キットの組み立てに入る前に、あらかじめ説明文をよく読んで下さい。
★このキットはモーターと乾電池を使ってスピード感あふれる走行を楽しめます。直進専用となっておりますので競技会にも有利です。

★モーターはマブチRE-260を使います。電池は単3乾電池2本を使うのと4本使うののどちらかを選んで作ることができます。なお乾電池4本を使う場合には人形やシートなどはつけられません。組み立てに入る前にどちらにするか決めておいて下さい。(モーターや電池は別にお買い求め下さい。)
★ニッパー、ピンセット、ナイフ、ドライバー等の工具を用意して下さい。
★チューブ入りの接着剤がキットに入っていますが、きれいに仕上げるためには他に液体接着剤を用意して使いわけるとよいでしょう。タミヤからはピン入りの液体接着剤タミヤセメントが発売されています。

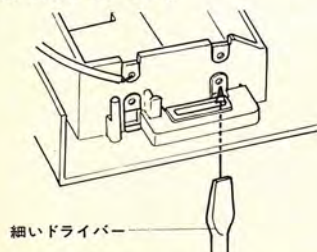
これは塗装指示のマークです。全体の塗装についてはP6のペインティングページを参考にして下さい。各部の塗装色名はすべてバクトラタミヤの色名で指示されています。
★塗料は、必ずプラスチックモデル用塗料をお使い下さい。

2 〈モーターのとりつけ〉

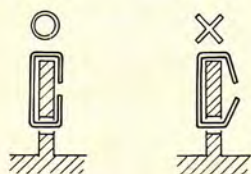
〈C3のとりつけ〉



電池受け金具Aは下図のように細いドライバー等をつかっつめをしっかりと折り曲げて下さい。

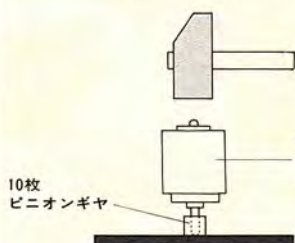


★金具はしっかりと曲げて下さい。
良い例 悪い例



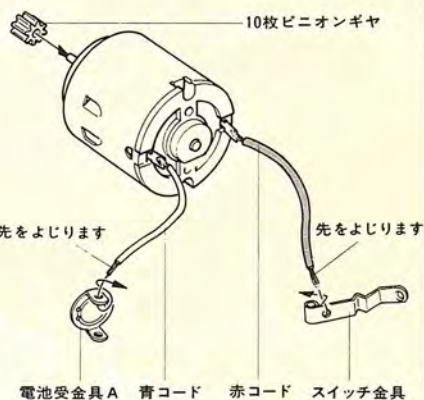
1 ビニオンギヤのとりつけ

〈ビニオンギヤの打ち込み〉



10枚
ビニオンギヤ

RE-260
モーター
(別売)



先をよじります

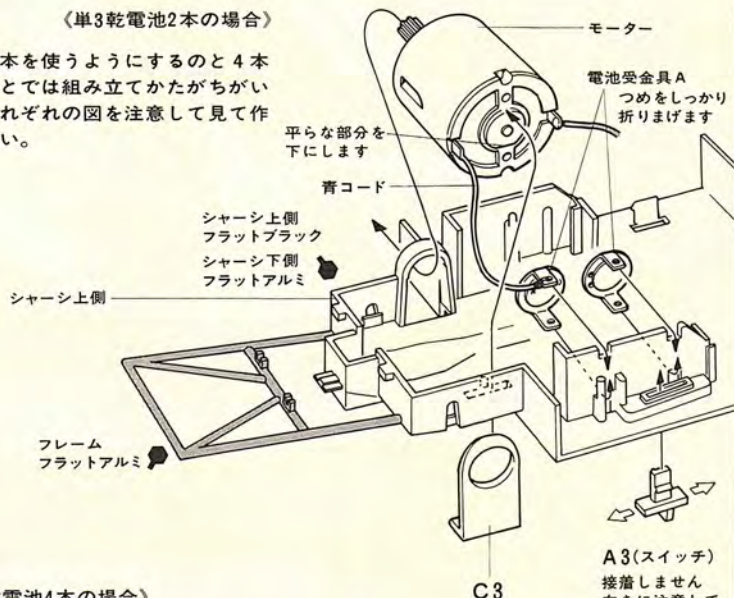
先をよじります

電池受金具A 青コード 赤コード スイッチ金具

2 モーターのとりつけ

〈単3乾電池2本の場合〉

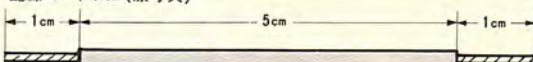
乾電池2本を使うようにするのと4本にするのでは組み立てかたがちがいます。それぞれの図を注意して見て作して下さい。



A3(スイッチ)
接合しません
向きに注意して
下さい

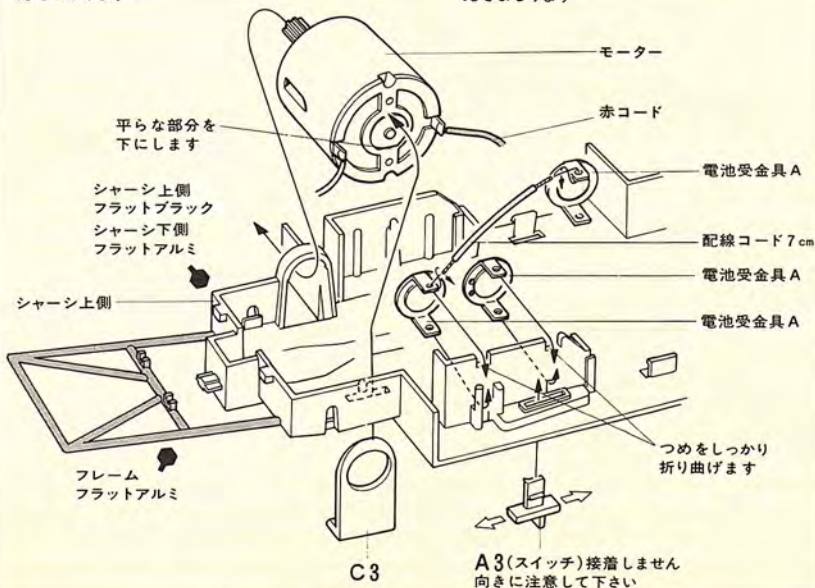
〈単3乾電池4本の場合〉

配線コード7cm(原寸大)



先をよじります

先をよじります



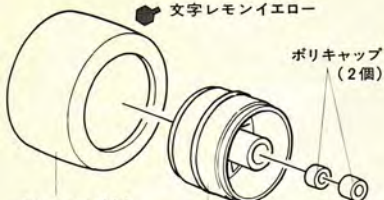
つめをしっかりと
折り曲げます

A3(スイッチ)接合しません
向きに注意して下さい

3 《リヤホイールのとりつけ》

《リヤホイール》

● 文字レモンイエロー



ポリキャップ
(2個)

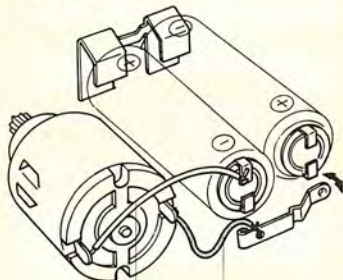
B12 ● フラット
ブラック

リヤタイヤ(大)
DUNLOPの文字を
表側にします

《配線のチェック》

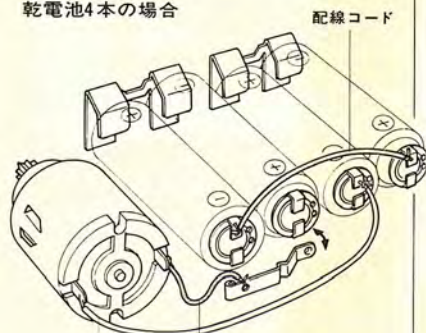
各コードが正しく配線されているかチ
ェックして下さい。

乾電池2本の場合



青コード 赤コード

乾電池4本の場合



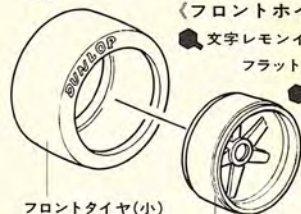
配線コード

青コード 赤コード

5 《フロントホイールのとりつけ》

《フロントホイール》

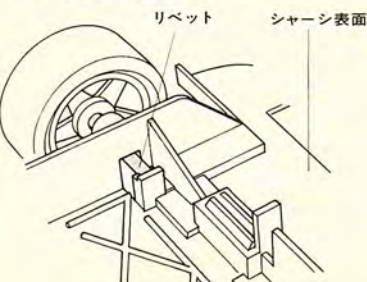
● 文字レモンイエロー
フラットブラック



B10

フロントタイヤ(小)
DUNLOPの文字を
表側にします

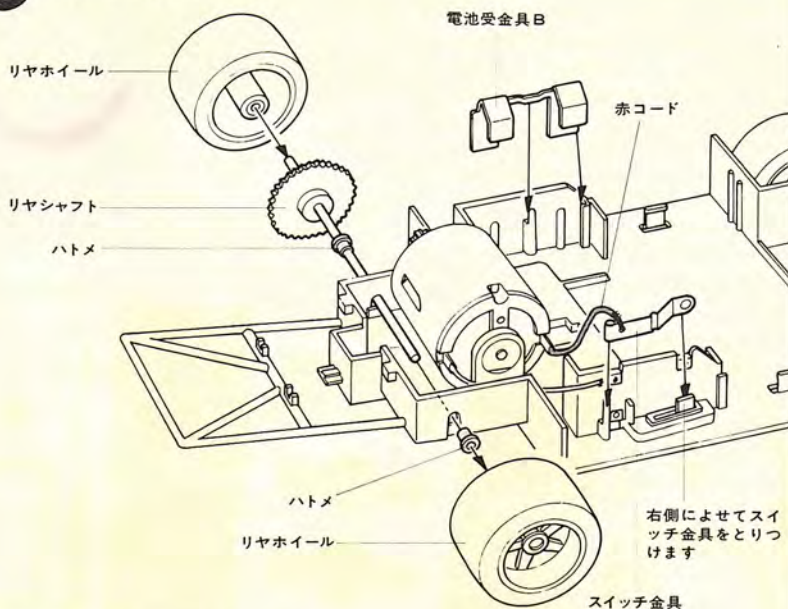
《リベットとりつけ図》



リベット

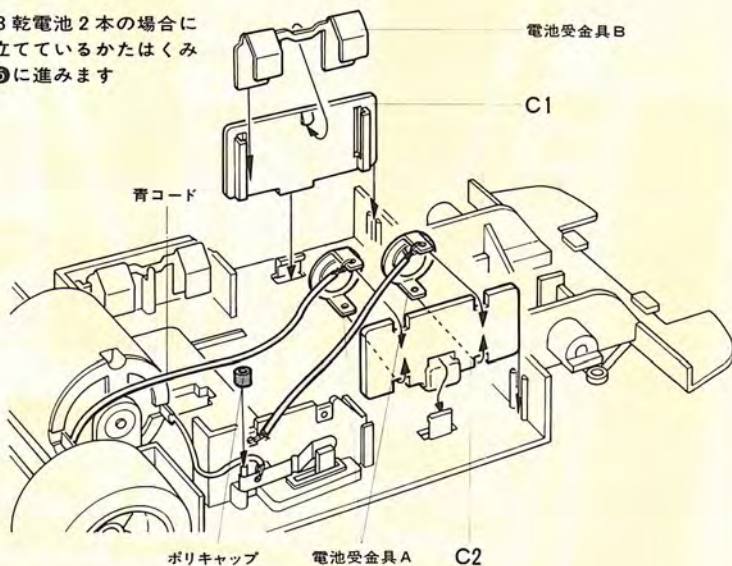
シャシ表面

3 リヤホイールのとりつけ



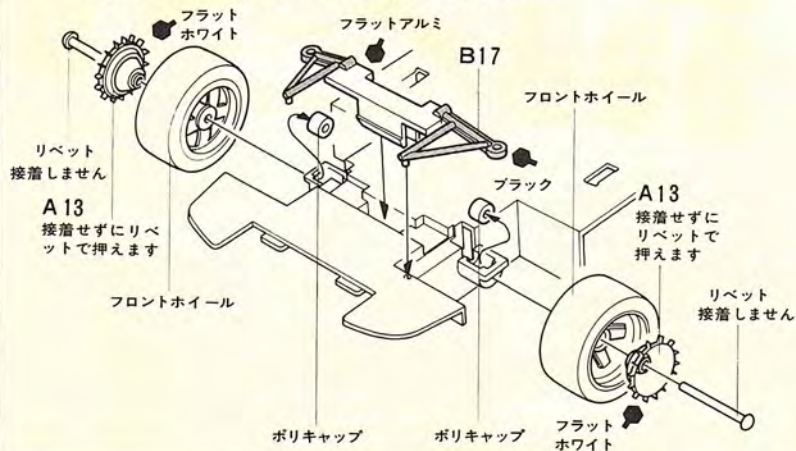
4 単3乾電池4本の場合の配線

★単3乾電池2本の場合に
組み立てているかたはくみ
たて⑤に進みます

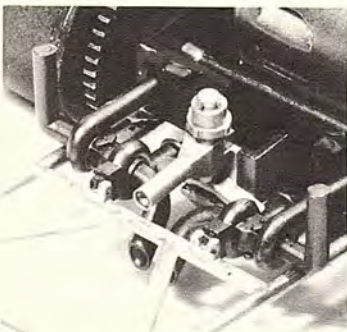


5 フロントホイールのとりつけ

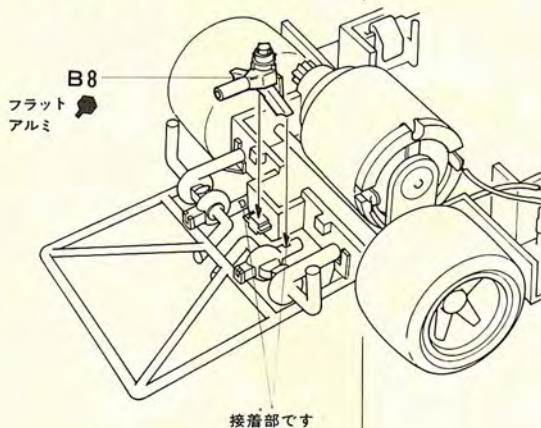
★最初にポリキャップを、次にB17を取りつけます



6 《ターボチャージャのとりつけ》



《くみたて2》



《人形のくみたてと塗装》

人形は乾電池4本の時は組み立てません。

人形のうてはくみたて⑦でハンドルに合わせて接着して下さい。



《ヘルメットの塗装とマーキング》

ジャッキー・イクス
カーナンバー5と6

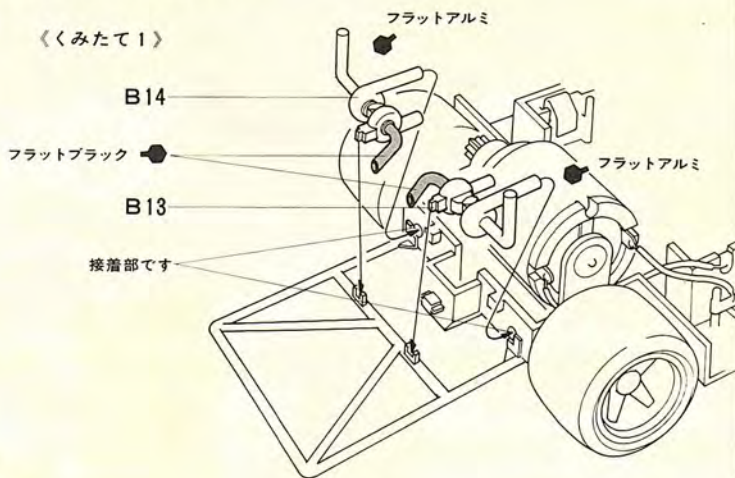


ボブ・ウォレック
カーナンバー6

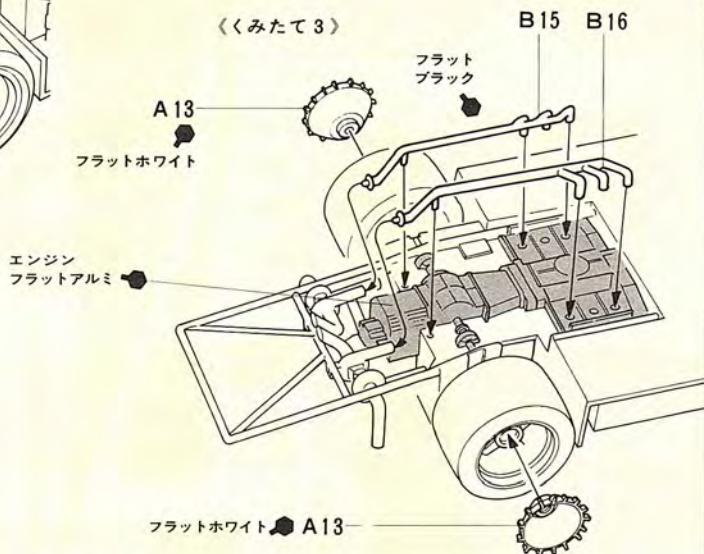


6 ターボチャージャのとりつけ

《くみたて1》

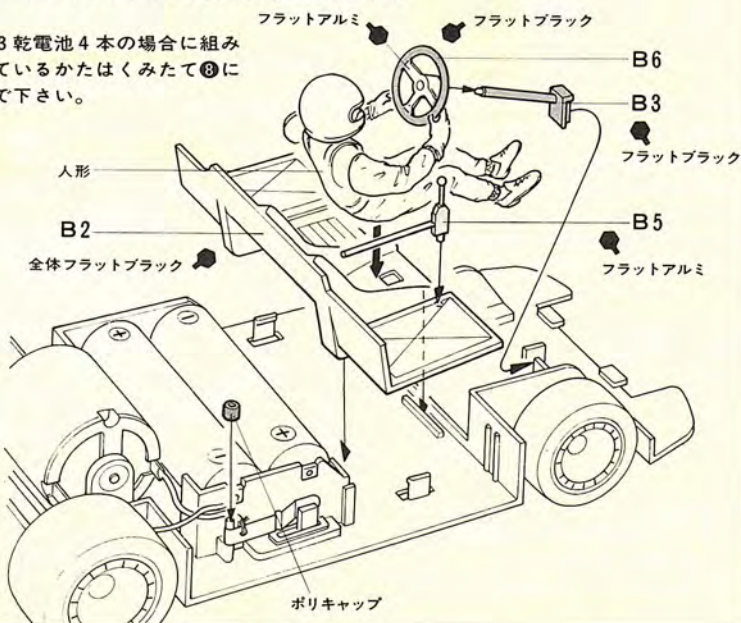


《くみたて3》



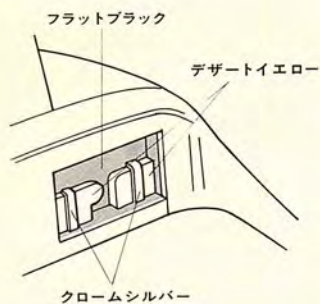
7 コクピットのくみたて(単3乾電池2本の場合)

★単3乾電池4本の場合に組み立てているかたはくみたて⑧に進んで下さい。



8 《ボディ裏側のくみたて》

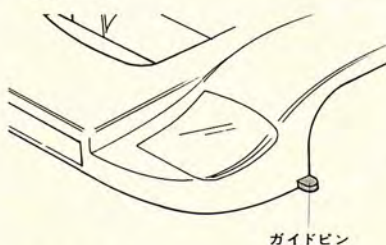
《A4の塗装》



《マーク「CIBIE」を貼る位置》

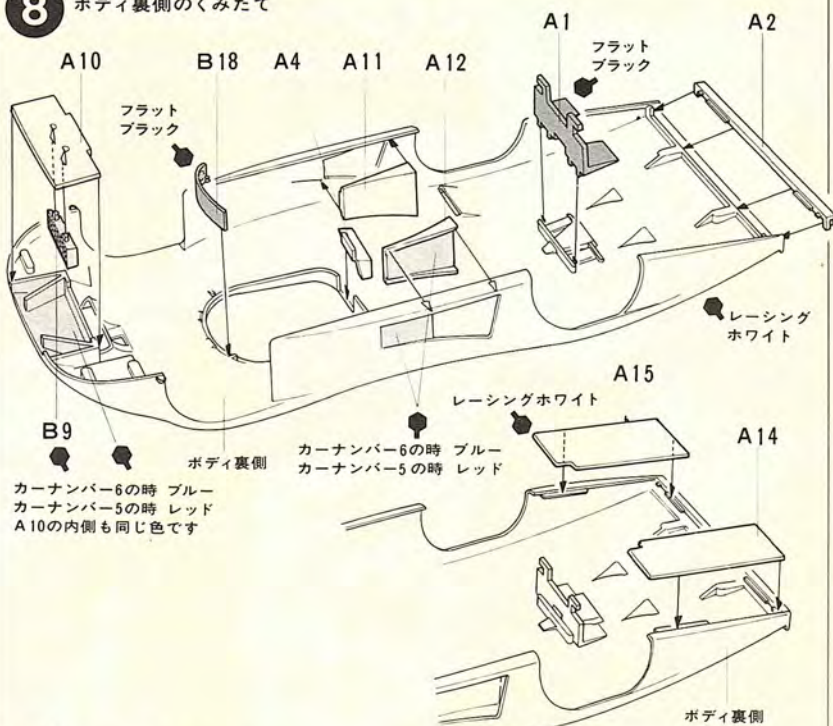


ボディについているガイドピンは競技会で走らす時のコースの案内になります。実車にはついていませんのでスケール感をだいにする場合は切りとって下さい。

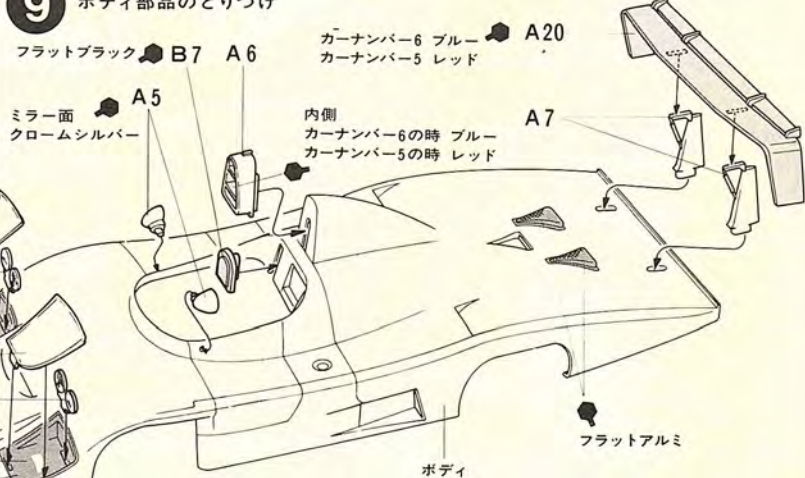


不用部品B1、B4、B11、B19、B20です。他に乾電池2本の場合はC1、C2、乾電池4本の場合はB2、B3、B5、B6および人形の部品が余ります。

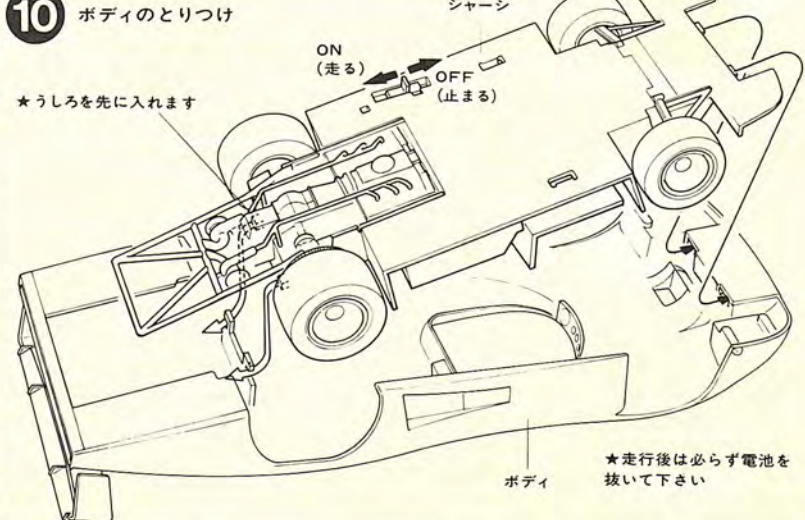
8 ボディ裏側のくみたて



9 ボディ部品のとりつけ



10 ボディのとりつけ

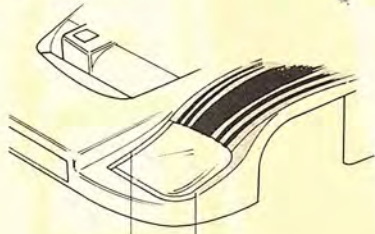


★走行後は必ず電池を抜いて下さい

エ 936-78 ターボの塗装

《ボルシェ 936-78 ターボの塗装》
1978年のル・マンに登場した2台の936-78ターボは白地に赤、青、紺の3色ストライプが描かれています。このストライプはスポンサーであるお酒のメーカー、マルティーニのチームカラーです。2台は区別するためにリヤウィングとNASAダクトの色を赤と青にそれぞれ塗装していました。マークは右図を参考に貼って下さい。細部の塗装は組立図中に示してあります。

《マークをはる時の注意》
マークは①～⑰までは番号順にはって下さい。マーク②、③は下図を参考に
はります。マーク⑦、⑧も同様に貼
ります。



《使用する塗料》

バクトラクミヤ（筆塗り用）より

ブラック		X 1
ホワイト		X 2
ブルー		X 4
レッド		X 7
レモンイエロー		X 8
フラットブラック		X F 1
フラットホワイト		X F 2
フラットフレッシュ		X F 15
フラットアルミ		X F 16

タミヤカラー（スプレー式）より

レーシングホワイト		T S 7
-----------	-------	-------

家庭用品品質表示法による接着剤品質表示

1. 幼児の手の届かないところに保存し、いたずらをしない様注意して下さい。
2. 火気に注意し換気をよくして下さい。
3. 故意に吸わない様注意して下さい。

表示者 S.Z.3000 S.Z.3006 S.Z.5013

★部品を請求される時は下のカードが必要です。
部品請求をなさる方はあなたの氏名、住所、郵便番号
(できれば電話番号)を1字づつはつきりとお書き下さい。

MARTINI PORSCHE 936—78 TURBO

1/24 スポーツカーシリーズ

部品を紛失したり、破損なされた方は、このカードの必要部品を丸でかこみ代金を切手又は郵便為替で田宮模型企画アフターサービス係迄お申し込み下さい。

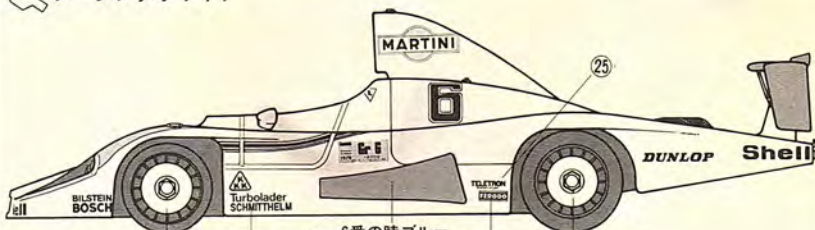
A 部品.....	350円
B 部品.....	350円
C 部品.....	150円
透明部品.....	150円
ボディ.....	350円
シャーシー.....	300円
金具一式(タイヤ付).....	300円
マーク.....	200円

7904



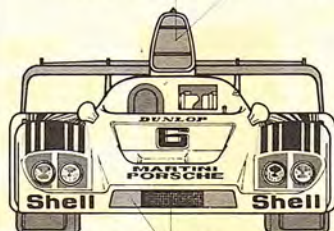
田宮模型
静岡市小鹿628 ㊦422

レーシングホワイト

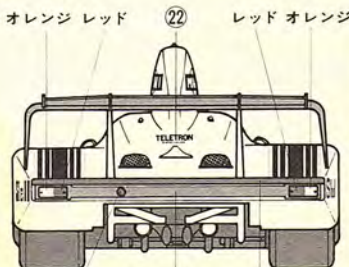


フラットホワイト ②③ 右側 ②④ 6番の時ブルー 5番の時レッド **FERODO** フラットホワイト

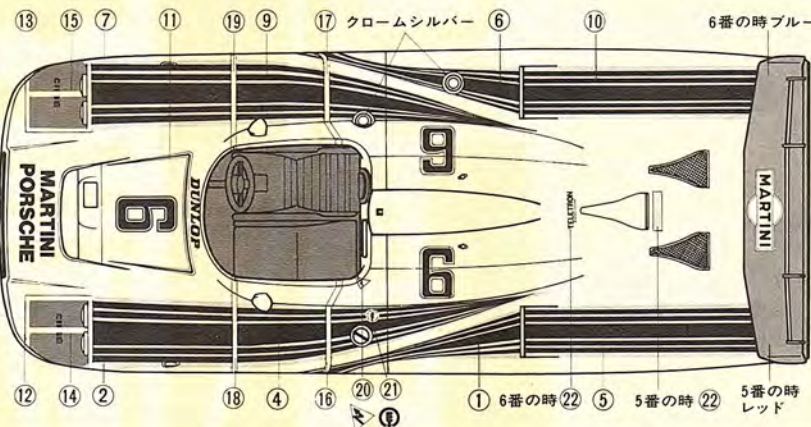
内側6番の時ブルー 5番の時レッド



内側6番の時ブルー
5番の時レッド



レッド 6番の時ブルー
5番の時レッド フラットアルミ



APPLYING DECALS

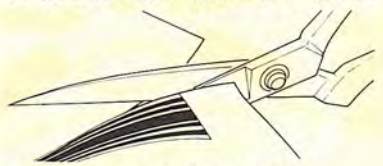
〈スライドマークのはりかた〉

1-〈マークをはる前に〉

スライドマークをはる所のほこりや油気を、ぬらした布で良くふきとって下さい。

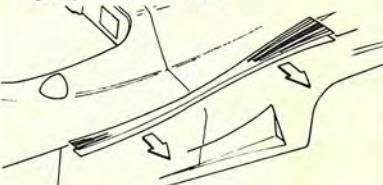
2 - 〈マークを切りはなす〉

はりたいマークをハサミで切りとり、必ずニス（透明な）部分をきれいに切りとります。



3-〈マークをぬるま湯にひたす〉

ぬるま湯に10秒程ひたしてからひきあげタオル等の布の上におきます。

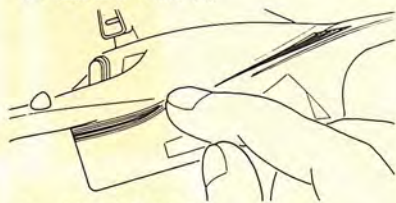


4-〈マークをはる〉

台紙のはしを手でもち、マークをスライドさせてモデルに移して下さい。

5 - 〈マークを正しい位置に移す〉

指に少し水をつけてマークをぬらしながら正しい位置にずらします。



6 — 〈布で水分をとる〉

タオル等のよく水気をすうやわらかい布でマークの内側の気泡をおし出しながら、おしつけるようにして水分をとります。マークをはる場所が曲面や凹凸している時は、むしろタオルでマークをおさえて下さい。マークがモデルの形になじみます。



そのままマークが完全に乾くまで手をふれないで下さい。

★はみだしたマークはナイフでていねいに切りとって下さい。

